

令和5年度 嘉徳小学校 学校評価報告書

【学校の教育目標】
 確かな学力を身につけ、美しい心を持ち、
 活力ある子どもの育成

【本年度の重点目標】
 ○「進んで学び・考える子ども」を育てる。
 ○「自他を大切に作る健やかな子ども」を育てる。

4 : 大変よい 3 : よい 2 : 努力を要する 1 : すぐに改善

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
確かな学力を身につけた子どもの育成	自ら学ぶ子ども	【自分の考えを適切に表現する】 自分の考えを適切に発表することができる 〈結果〉「自分の考えを進んで発表している」: 2.9 ・全学年で授業に「書く活動」を行う場を設定し、発表や目的のある話し合い活動を取り入れた。 ⇒自分の考えを言葉で書くことができる児童が増えてきている。しかし、自分の考えを進んで発表したり、しっかりと伝えたりすることが苦手な児童も多い。	2.9	○どの学年の児童も積極的に挙手をして発言できているところが素晴らしいと思います。 ○嘉徳小学校へは4回訪問して見学をさせていただきました。児童の評価も教師評価も適切だと思います。学校の教育目標に向かって、組織的に取り組まれ十分に成果が表れていると感じました。また、保護者アンケート集計結果から保護者や児童とも良好な関係が築かれていることも理解できました。今後も嘉徳小学校の教育文化を継続されることを希望します。 ○相手への意識が強い子ども達が多いのかなと思いました。自分の意見や考えが間違っていないか、周りに笑われてしまわないかなど、集団の負の圧力を感じているかもしれないので、子ども達に誤発言があったとしても、それを学習し互いによさを認め合い、学びあっていく雰囲気づくりが大事だと考えます。 ○どの学年も「書く活動」で自分の考えを導き出し、まとめさせ、発表につなげてあるのがとても大切だと思います。なかなか発表することが難しい子どもも多いと思います。発表する側の指導、聞く側の指導、どちらも大変な指導だと思いますが、子ども達が自信をもって、自分の気持ちを言えるようになってほしいですね。 ○手を挙げる児童は、3割程度(学年によって異なっていた)	◇「書く活動」の取組をもとに、自分の考えや思いを相手に話したり発表したり、適切に表現することができる力をつけていく。そのために、目的・観点・方法を明確にした「書く活動」や交流活動を多く取り入れ、ねらいを明確にした授業づくりを行う。 ◇教科だけでなく、学校行事や特別活動の中でも交流の場面や表現活動を仕組み、発表の場を増やしていくとともに、お互いの良さを認め合い、学び合っていく雰囲気(環境)づくりに努める。
		【わかる授業づくり(個に応じた指導)】 算数の学期末テスト85点以上達成率(低学年90%、中学年85%、高学年80%以上) 〈結果〉各学年: 目標を達成 ・算数科において重点単元を選定し、指導方法工夫改善教員を中心として、全学年で習熟度別分割指導を行った。 ・重点単元の結果85点未満の児童に対しては、補充を行うなど学力の確実な定着を図る取組を行った。 ⇒各学年目標を達成することができた。算数では、複数教員による習熟度別分割指導が成果を上げている。	3.0	○主体的に授業に取り組む姿が多く見受けられました。 ○中学年が理解が難しくなってくると思うので、中学年に対しては、85点未満ではなく、もう少し点数を下げるのもいいのかもしれません。 ○習熟度分割指導や補充など、毎日の先生方の指導の積み重ねのおかげで学力がしっかり定着していて素晴らしいと思います。 ○高学年になり、問題が難しくなり、達成率が下がってきている。基本は読解力であると思われる。	◇国語科における各学力調査や標準学力検査結果の分析を基に、きめ細かな指導について検討し、確実な学力の向上を目指す。 ◇算数科において、全学年各学期に重点単元を設定し、習熟度別指導や少人数指導に取り組み、個に応じた学習指導方法の工夫改善を行う。
		【読書活動の推進】 低: 60冊、中: 50冊、高: 40冊 〈結果〉「本を読んでいる」: 3.4 ・11月に行った「読書祭り」では、スタンプラリーを実施し、意欲付けを図った。 ⇒各学年の平均は目標を達成しているが、個人差も見られるので声かけや本の紹介を行っていく。	3.1	○素晴らしい結果だと思います。 ○本に触れる機会を増やすことが大切だと思います。様々なジャンルや形式の本を置いて、子ども達がいっつも本を読める環境を作るといいと考えます。 ○読書の楽しさを子どもの頃に知ることは、心を育てる上でも大きいと思います。委員の子たちが色々なアイデアで意欲づけできていること感じました。読み聞かせなど、たくさん取り入れて頑張ってほしいです。 ○スタンプラリーなど、子どもが興味を示すような行事を行うことで、図書室に足を運ぶようになる。問題を解く力は、読書が基本である。	◇給食後のすき間時間など、静かに読書する時間を確保し、読書の習慣を身に付けさせる。 ◇家庭への啓発「うちどく」等を通して家庭との連携を図り、週末読書を推進する。

美しい心を持つ子どもの育成	思いやりのある子ども	【家庭学習の習慣化】 家庭学習：(10分×学年+10分)以上	3.0	○継続して取り組んでいただきたい。 ○未来塾は、とてもいい取り組みだと思うので、学校からも保護者や子ども達に広く周知するべきだと思います。 ○家庭学習の習慣化、学年が進むにつれて大切さが痛感できると思います。毎日コツコツと積み重ねること、指導も毎日大変だと思いますが、この細かな指導の成果が学力につながっていると思います。	◇カスタによる家庭学習等に取り組ませることで、児童の意欲向上を図る。 ◇ 土日の宿題の内容・量の工夫を図るとともに、高学年については、土曜未来塾への参加を奨励する。
		〈結果〉「毎日、宿題や自学をしている」:3.6 ・各学級での指導の徹底とともに、学年通信等を通して保護者に対して家庭学習の啓発を行った。 ⇒学年目標の時間を達成できている児童が増え、全学年とも平均が家庭学習学年目標の時間を超えている。			
		総合所見 ○ これまで学校全体で組織的に取り組んできた実践の成果が見られるので、重点目標である「進んで学び、考える子ども」の育成を目指して、子どもの主体性や表現力を高めるための授業づくりや活動の場づくりに取り組み、本校教育活動の充実を図る。			
		領域 項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価
		【良好な人間関係づくり(不登校防止)】 友だちと仲良くし、学校生活を楽しむ	3.2	○子どもにとって「学校が楽しい」と思えることが一番です。たくさん子ども達がそう思っていることが素晴らしいです。先生方のきめ細かな対応が行き届いているのですね。お疲れ様です。 ○不登校やいじめが社会問題となっているが、嘉穂小は少ないほうであり、先生方のきめ細かな対応が行き届いている。 ○いじめなどが起こりやすい環境は、「子どもにとってストレスが多い環境」というデータがあると聞いたことがあります。不満やストレスが多い環境は、子どもが攻撃的になりやすくなると思うので、日頃から個に応じた分かりやすい授業や環境づくりが重要だと考えます。 ○友達や仲間のことを認め合う姿が多々見られました。道徳や人権学習の成果だと思います。	◇子ども達が「楽しい！来たい！」と思える学校づくりを目指す。 ◇子どもとの対話や関わりを大事にし、日頃から児童一人一人の様子を丁寧に見取り、問題(いじめ・不登校等)の早期発見・早期対応に努める。 ◇中学校への引き継ぎを確実にし、新たな不登校を生まない取組を中学校と連携して取り組む。
【規範意識の育成】 ルールを守って、学校生活を送る	2.9	○しっかり規範意識が育っていると思います。挨拶も元気よくできている点はよいとおもいます。 ○いい取り組みだと思います。家庭でもルールがあると思うので、保護者にも日常的に取組を働きかけてもいいと思います。 ○共通認識を図ること、一番大切なことですね。チームワークが必要ですよ。		◇今後も全職員で共通認識を図り、統一した指導を行っていくとともに、家庭とも連携し、取組を進める。 ◇嘉穂中学校・牛隈小学校と連携し、中学校区として9ヶ年を見通した「学校のきまり」を協議・実施していく。	
〈結果〉「ルールを守って学校生活を送っている」:3.2 ・「学校(嘉穂小)のきまり」を各教室に提示し、校内放送等で日常的な意識化を図った。 ・全職員で共通認識を図り、統一した指導を行っている。 ⇒大きなトラブルや生活指導は少なく、きまりを守って生活しようとする意識が高い。					
		【言語環境づくり】 丁寧な言葉遣い、やさしい言葉かけができる	2.9	○言語環境が整っていると子ども達の心も落ち着きますね。また、友達のいい面を皆で認め合う場がたくさんあると子ども達の心も解放されて安心できますね。今日の参観でたくさんそういう場面があり、子ども達がいい顔をしていました。 ○言葉遣いは、友達関係を作るうえで重要なコミュニケーションである。 ○保護者の言葉遣いがよくなっていきます。保護者自身の言動は、常に子ども達の見本になっているという意識を持たせる活動も必要だと考えます。 ○大人や教師のいない場面での言葉かけが気になります。子ども同士でも「ふわふわ言葉」を意識できる取り組みが何かあればと考えます。	◇丁寧な言葉遣いや優しい言葉があふれる言語環境づくりに取り組んでいくとともに、家庭での言語環境も整えてもらうよう、保護者への啓発を行う。 ◇教員がお手本となる心がけていくとともに、全職員で言葉の重要性についての共通理解を深め、日常的な言葉遣いの指導の継続・徹底を図る。
〈結果〉「ふわふわ言葉を使っている」:3.4 ・道徳科や学級活動との関連を図りながら、適切な言葉遣い(ふわふわ言葉・ちくちく言葉等)について日常的に指導を行った。 ・全校で応募した感謝の作文から優秀賞に選ばれた作文を給食時間に放送し、ふわふわ言葉やありがとうの心を増やす取組を行った。 ⇒言葉によるトラブルが少なくなっているものの、依然として、人を傷つける言葉を使ってしまう児童も見られる。					

		<p>【挨拶の励行】 すすんで地域の人や友達などに挨拶をする</p> <p>◇子どもによる挨拶運動や取組後の賞賛活動を継続し、児童の主体性を高める取組を行っていく。</p> <p>◇嘉徳中学校・牛隈小学校と連携した取組が行えるよう、校区生徒指導部会で協議を進めていく。</p>			
		<p>◇とても元気に挨拶ができていると思います。児童をほめてあげてほしいと思います。</p> <p>◇大人でも挨拶ができていない人もいますので、大人が周囲の人に元気に挨拶をして、根気よく自分から挨拶ができていない児童に声をかけていくしかないと思います。</p> <p>◇田舎の子は、大人しいのかどうかかわからないが、大きな声であいさつができない。</p> <p>◇挨拶することから仲良くなるのが始まると思います。地域の中でも、まずは、挨拶することから次的一声が繋がっていきます。大人も挨拶していきたいですね。(自分も含め)</p>	2.8		
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	3.0		
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	2.8		
		<p>◇基本的な生活習慣がしっかり確立されていると思いますが、家庭間格差があるのでは！？</p> <p>◇SNSに関するトラブルは、保護者がSNSの危険性の実態を知らないと思うので、研修会などで、周知させていくことが必要だと思います。</p> <p>◇SNSの授業は、わかりやすく子ども達の反応も良かったように思われました。</p> <p>◇メディアとの関わり方、これからますます気になります。子どもの成長に関することは、どんどん保護者に啓発して理解を求めていきたいですね。</p>	3.0		
		<p>◇進んで掃除をする姿が見られることはいいことですね。きっと掃除をするとよい点がわかってくと、そういう子が増えるのでしょね。</p> <p>◇大変すばらしい取り組みだと思われる。</p> <p>◇教師が児童に求める具体的な姿(ゴール像)をしっかりと示すことが大切だと思います。</p>	2.7		
領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
活力ある子どもの育成	たくましい子ども	<p>【鍛ほめの取組】 非認知能力(やり抜く力)の向上</p> <p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	3.0	<p>◇持久力・忍耐力の育成は、非常に大切だと思います。マラソン大会や頑張りをたたえる表彰などがあるとよいのではないのでしょうか？</p> <p>◇コロナなどで子どもの体力が低下してきているので心配である。</p> <p>◇素晴らしい取り組みですね。自分で目標を決めて根気強く頑張ること、大人になっても必要です。</p>	
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	2.8	<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	3.0	<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	2.8	<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	3.0	<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	
		<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	2.7	<p>◇「自分の目標の実現に向けて、粘り強く取り組む」児童の育成を目指し、意図的・計画的な称賛の場を設け、意識の向上を図る。</p> <p>◇体力テストの結果から、学校としての課題を分析していく。</p>	

		【給食活動】「マナーに気をつけて食事」の定着			
		〈結果〉「マナーに気をつけて食事をしている」:3.5 ・毎学期、食事のマナーを振り返る「にこにこ元気いっぱいカード」を活用し、食に関する目標の取組を進めた。 ⇒数年ぶりに給食試食会を実施し、子ども達の給食時間の様子を見ていただくことができた。	2.8	○コロナ禍で出来ていなかったので、試食会は開催出来てよかったと思います。 ○食育は、体づくりの基本である。 ○友達と楽しく食事をする。学校生活の楽しみの一つです。毎日のおいしい給食を通して、食育を大いに学んでほしいです。	◇給食を楽しく、そして安全に実施できるよう、養護教員を中心に栄養教諭とも連携し、今後も指導の工夫を図る。 ◇毎月設定されている給食時間の目標達成に向けた取組を継続し、給食に関する喜びや感謝の気持ちを育みながらマナーの向上を図る。
		総合所見 ○ 様々な活動が制限されたコロナ禍以降、児童の体力の低下やSNS等メディアの長時間化が本校の課題となっている。子どもたちの心と体の健やかな成長のため、家庭との連携を強めながら協働で基本的な生活習慣の定着を目指して取組を進めていく。さらに、PTAと連携し、メディアに関する研修を子どもと保護者で行っていく。			
領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
郷土愛	ふるさとを愛する子ども	【地域に愛着をもつ児童の育成】 自分がすんでいる「かほ」がすき	2.8	○何かもつとほかの地域に自慢できるような取り組みがあるとよい！！ ○コミュニティ・スクールのことは、まだよくわかりませんが、自分の住んでいる地域のことをたくさん知って興味をもってほしいなと思います。子どものころの地域での体験が大人になっても生き続けると思うので。 ○郷土愛を育むためには是非続けてほしい。 ○少しでも協力できればと思います。	◇嘉穂中学校・牛隈小学校と連携して小中一貫教育を推進し、9ヶ年を見通した学習活動の構築を図る。 ◇学校と地域(保護者・地域住民等)が目標を共有し、一体となって地域の子ども達を育てていく「地域とともにある学校づくり」を進める。
		〈結果〉「自分の住んでいる「かほ」のことが好き」:3.8 ・学校と地域(保護者・地域住民等)が目標を共有し一体となって地域の子ども達を育てていくコミュニティ・スクールを進める。 ⇒全学年で地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた学習活動(ふるさと学習)を実践することができた。			
		総合所見 ○ 本年度からコミュニティ・スクールがスタートしたものの、まだまだ手探り状態である。コロナ禍以降、地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することができている。今後さらに、「地域とともにある学校づくり」を進めていく。			